

# 医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 H. N. 学年 (留学当時) 5年

実習期間 2023年 2月 27日 (月) ~ 2023年 3月 24日 (金)

留学先機関名 パリシテ大学

## 1 プログラム内容について

### (1) 参加した留学プログラム

- ・海外リサーチ・クラークシップ      ⊙海外クリニカル・クラークシップ
- ・その他短期派遣プログラム ( )

## 2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	羽田	2/25 9:25	現地着	シャルル・ド・ゴール	2/25 16:25
	経由地着			経由地発		
復路	現地発	シャルル・ド・ゴール	3/25 19:10	日本着	羽田	3/26 17:00
	経由地着			経由地発		
到着空港から実習 (宿泊) 地までの移動手段・時間・金額	移動手段 (行 タクシー 帰 RER ) 所要時間: 約 50 分 金額目安: 行 約 30 ユーロ (二人で割って) 帰 なし (定期券 (navigo) を使ったため)					

## 3 宿泊先について

滞在期間	2023年 2月 25日 ~ 3月 25日	
宿泊タイプ	寮	人部屋 共有設備: ( )
	⊙ホテル	1人部屋
	ホームステイ	人家族 自分以外の留学生 ( ) 人
	Airbnb・シェアハウス	人で共同      ホストの同居; あり・なし 共有設備: ( )
実習場所までの距離	(metro) で ( 15, 30, 40 ) 分 (3つの病院で実習したため)	
宿泊費用	456,183円 / 1ヶ月	
住所	81, Rue, Raymond, Losserand, 75014, パリ	

## 4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1ヶ月

項目	金額	内訳
食費	約 740 ユーロ	1ヶ月合計で 朝 約 40 ユーロ 昼 約 200 ユーロ (二週間病院食が無料だった) 夜 約 500 ユーロ
学用品購入費	0 ユーロ	
交通費	約 135 ユーロ	タクシー 約 40 ユーロ、2月中 metro など 約 10 ユーロ、3月は navigo(1ヶ月用)を使用し 84 ユー ロ
その他	約 40 ユーロ	シャンプー、コインランドリー等
合計	約 915 ユーロ	

(2) 派遣先周辺地域の治安等

パリ 14 区にあるモンパルナス地区に泊まりました。モンパルナス地区は観光客が宿泊することも多くパリの中でも治安はいい方とされていますが、実際住んでみたところ何も問題はありませんでした。ただ、もちろん身軽な格好で歩く、夜中に人気のない道は避けるなどのスリ、安全対策は行っていたので、そういった点を最低限おさえていたら過度に恐れることはないと感じました。

(3) その他留意事項等

私たちの留学期間はちょうど年金制度改革に反対するストライキ期間と概ね重なってしまったため、交通機関の乱れは非常に頻繁に発生していました。そういった中で、パリの交通機関を調べることができるアプリやたびレジなどは非常に役に立ちましたので、事前にインストール、登録すると良いと思いました。

## 5 実習について

実習診療科と主な内容	
実習科：救急科 Necker Hospital (Hospital European Georges Pompidou, Hospital Bichat)	
実習内容	① SMUR に同乗して初期対応 (Necker Hospital)
	② 救急外来の診察見学 (Hospital European Georges Pompidou)
	③ 救急・感染症科の回診・カンファ参加 (Hospital Bichat)
	④ 救急・感染症科の外来見学 (Hospital Bichat)

(1) プログラム初日の行動

初日は9時に Necker Hospital の SAMU building に集合と伝えられました。まず私が来る事情を知っている事務の方や先生と会って挨拶をし、チュートリアルを受けました(セキュリティーキーの受け取り、今後の動き方など)。その後は出動命令が出次第、担当の SMUR の前に集合しその日の担当の医師、ナース、ドライバーと一緒に現場に向かう、といった形でした。実習は基本的に 18 時まででした。

## (2) 実習詳細

Necker Hospital では SMUR (Service mobile d'urgence et de reanimation) と呼ばれる、日本の救急車とは少し違った移動式の ICU のようなものに医師達と一緒に同乗して現地に向かい、医師やナースの補助をするといったことを行いました。私はフランス語が話せなかったので、主に患者との会話なしでできる初期対応(心電図をとる、血圧を測定する、サチュレーションをとるなど)を任せられました。どういう患者かといった説明は、基本的に同乗した医師から英語で教えていただきました。現地の医学生と一緒にすることもあり、そういった時は手分けして補助をしました。

## (3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	8:30	8:30~18:00	12:00 頃	18:00
行動	病院へ集合し、SMUR 用の服に着替えて担当の SMUR のアラームを受け取る	基本は待機。出勤を知らせるアラームがなり次第、SMUR 前に集合し現地に向かう	その日のメンバーと昼食	実習終了

## (4) 休日の過ごし方

休日は基本的に観光をしていました。一人暮らしだったため一人で行動することも多々ありましたが、同じ病院で実習していた現地の医学生や今度日本に来る現地の交換留学生達と仲良くなって一緒に行動する機会もあり、あまり孤独を感じず充実した休日を送ることができました。

## (5) 留意事項等

私はフランス語が話せない状態で留学しましたが、やはり言語の壁は常に感じました。私の英語力も然り、現地の先生もあまり英語が堪能でない方が多く、救急の現場ということもあり状況を十分に理解できないシーンが多々ありました。もちろん英語だけでも留学は十分可能ですが、最大限に学ぶにはフランス語を習っておくことが必要だと思います。

# 6 留学全般について

## (1) 自身の成果・感想

私は、1週目に Necker Hospital の小児用 SMUR、4週目に成人用 SMUR、2週目に Hospital European Georges Pompidou で救急外来の見学、3週目に Hospital Bichat で感染症・救急科の回診・カンファ・外来見学、と様々な場所で経験をさせていただきました。

主に Necker Hospital では、フランス語が話せないかつ、実際の救急の現場での実習のため最初はどのようにいいか分からずただ見ているだけというような状況になりましたが、だんだんと雰囲気慣れ先生方や学生ともコミュニケーションがうまく取れるようになってからは患者との会話なしでできる初期対応(心電図をとる、血圧を測定する、サチュレーションをとるなど)を任せられ、それをチームの一員として実行できました。個人的に、全く異なった環境から来た日本人に対してあまり過度に気かけず、現地の医学生と同じように接してくれたことがとても良かったと感じました。自分から何をすべきか、どういった状況を積極的に聞かなければ何も身につかない環境に身を置くことで、主体性や度胸を身につけることができたと感じております。現地

の医学生は学生のうちから患者の診察をしたり、初期対応をしたりなどすでに医療チームに必要な存在となっています。そういった学生達と実習を共にしたのも、モチベーションを高める非常に良い刺激になりました。

また、先生や学生と話をすることで医師になる過程の違いを感じる機会が多かった印象を受けました。フランスの医学部は日本と同じ6年制の大学ですが、フランスでは6年時に筆記試験や実習点など様々な要素を考慮して最終的にランキングとして個人に割り当てられるそうで、そのランキングの結果に応じて上から希望する病院・診療科に進むことができるという話を聞きました。そういった目にみえる競争がフランスの学生の主体性、積極性をさらに掻き立てているのかなと感じました。

今回の留学は、全く異なった環境にさらされ、現地の人々から様々な刺激を受けたことで自分が今後どうしていきたいかを考えるいいきっかけになりました。コロナもあり実現されるか不安でしたが、改めて本当に留学をすることができて良かったなと感じております。

## (2) 今後の展望

留学で得た主体性や意欲を活かして、どのような状況下でも学びを得て常にスキルアップ・レベルアップしていける存在になろうと思っております。また外国の医者や医学生はいい意味で肩の力が抜けていて、皆リラックスして働いていたので、それらの良い点を吸収して真剣かつ楽しんで医学を学び続けていく所存です。今後はどこかで機会をいただけるのであれば、何か研究を達成する、もしくは自らの理想の医師像に近づくために必要な資産を獲得する手段として留学という制度を選択したいと考えております。

## (3) 後輩へのメッセージ

学生での病棟実習において最大限吸収するために一番大事なことは、主体性だと考えています。そして、その主体性を獲得できる一つの近道が留学です。全く異なった環境に対する不安、英語をはじめとした語学力に対する不安など色々あると思いますが、どんな方でも間違いなくいい刺激を受けることができると思います。本学のように留学プログラムが充実している大学は決して多くないので、ぜひこの貴重なチャンスをものにしてほしいと思います。

## (4) その他

この度、貴重な留学の機会を与えてくださった医学部後援会、倶進会、そして本学関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

# 医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 Y.K. 学年（留学当時） 5年

実習期間 2023年2月27日（月）～ 2023年3月24日（金）

留学先機関名 Université Paris Cité

## 1 プログラム内容について

### (1) 参加した留学プログラム

- ・海外リサーチ・クラークシップ  海外クリニカル・クラークシップ
- ・その他短期派遣プログラム（ ）

## 2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	羽田	9:25	現地着	シャルル・ド・ゴール	16:25
	経由地着			経由地発		
復路	現地発	シャルル・ド・ゴール	19:10	日本着	羽田	17:00
	経由地着			経由地発		
到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額	移動手段（ タクシー ） 所要時間：（ 45 ）分 金額目安：（ 58 ）ユーロ					

## 3 宿泊先について

滞在期間	2023年2月25日～3月25日		
宿泊タイプ	寮	人部屋 共有設備：（ ）	
	<input checked="" type="radio"/> ホテル・アパート	2人部屋	
	ホームステイ	人家族 自分以外の留学生（ ）人	
	Airbnb・シェアハウス	人で共同	ホストの同居；あり・なし 共有設備：（ ）
実習場所までの距離	（ メトロ+徒歩 ）で（ 15 ）分		
宿泊費用	60万円 / 1ヶ月		
住所	13 Rue Delambre 75014 Paris France		

## 4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1ヶ月

項目	金額	内訳
食費	約15万円	
学用品購入費		
交通費	1万円	メトロでの通学費
その他	8万円	レンタルWi-Fi代
合計	約25万円	

(2) 派遣先周辺地域の治安等

飲食店が多く、夜でも人通りが多かったため、特に不安を感じることはありませんでした。

(3) その他留意事項等

基本的に日常生活に必要なものは全て現地のスーパーでも売っているため心配する必要はありません。飲食店が滞在先の周辺にあるかどうかは確認しておくといいたいです。

## 5 実習について

実習診療科と主な内容（循環器内科）	
実習内容	① 朝9時からのカンファレンス参加（30分程）
	② その後、Université Paris Cité 学生の入院患者の診察に同行
	③ 現地の学生のクルズスに参加（不定期で30分～1時間）
	④ 冠動脈造影(CAG)、PCI見学

(1) プログラム初日の行動

9時半に病棟で担当の先生と合流し、実習に関する説明を受けました。Paris Cité大学の6年生の診察に同行し、実習が始まりました。

(2) 実習詳細

実習は Université Paris Cité の関連病院である Hôpital Saint-Joseph で行いました。基本的に実習は月曜から金曜の週5日、9時から12時半前後まででした。まず、朝9時からの医師・看護師・学生の出席するカンファレンスに参加していました。カンファの後には学生による1日2～4人の入院患者の診察に同行していました。診察では、問診はフランス語で行われているので、適宜英語で解説してもらいつつ、続く身体診察は一緒に行っていました。診察が終わると、学生

はカルテを書き、その解説もしてもらってました。学生はカルテを医師の先生にチェックしてもらい、先生から疾患についての解説をしていただいたり、所見について疑問点などがあるときは、先生と一緒に再度確認しに行ったりするといった感じでした。先生方が学生の書いたカルテのチェックをし終わると、その日の実習は終了となっていました。また、クルズスが週に1,2回あり、それにも学生とともに参加しました。その他、冠動脈造影やステント留置術などのPCIの見学もさせていただき、それは朝から夕方まで10件近く見るといった日もありました。

### (3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	9:00~9:30	9:30~12:30	(別日)10:00~16:00
行動	カンファレンス参加	学生の診察に同行	CAG, PCI 見学

### (4) 休日の過ごし方

エッフェル塔、凱旋門、ルーブル美術館などへ観光しに行っていました。また、夏に日本(本学及び順天堂大学)に留学予定の学生と食事に行くこともありました。

### (5) 留意事項等

自分が行く科に関する医学英語は予習しておいた方がいいです。困ったこととしては、基本的にフランス語で会話が行われているのを適宜、医師の先生や現地の学生に英語で解説してもらう形式なので、フランス語でずっと会話が行われている時はどうしても暇になってしまいます。余裕があれば、簡単なフランス語を勉強するのもいいでしょう。白衣は現地で支給され、私服の上に着るのでスクラブも必要なかったです。循環器内科を選ぶ方は聴診器が必須です。

## 6 留学全般について

### (1) 自身の成果・感想

今回の留学では循環器疾患患者に対する身体診察について多く学びました。疾患としては、心筋梗塞、弁膜症、心房細動、肺血栓塞栓症などの患者さんを診察しました。診察をしていて一番印象に残っているのは聴診についてです。日本での実習では聴診所見を実際に聴いて学ぶことはあまりなかったので、教科書や問題で出てくる聴診所見を文字として覚えていただけでした。しかし、僧房弁狭窄症(MS)の患者さんの聴診をした際に、I音の亢進がはっきりと聞こえたときは驚きを感じました。MSはリウマチ熱が主な原因として起こりますが、先進国では医療の発展によりリウマチ熱が激減しているため、見る機会は多くありません。しかし、フランスはアフリカなどからの移民が多いため、十分な医療を受けてこなかった人たちも多く、MSの患者が比較的多くいるとのことでした。その他、大動脈弁狭窄症でのII音の減弱および収縮期駆出性雑音、心膜炎での心膜摩擦音など、様々な疾患の聴診所見を学ぶことができました。

また、冠動脈造影やステント留置術などのPCIも多く見学させていただきました。行われている内容は日本とそう変わらず、日本企業の製品も多く置いてあるのを先生に見せていただきました。循環器領域において日本の医療はとても進んでいると先生は仰っており、日本の医療の良さを実感することにもなりました。

そして、日々の実習の中で一番強く感じたのは医学教育の違いです。今回の循環器内科の実習

では、学生は一人で毎日2~4人の入院患者を診察するのですが、問診では、現病歴・既往歴・生活歴・家族歴などを一から全て聞いており、身体診察では心音の聴診や下腿浮腫、肝頸静脈逆流の触診といった心疾患でよく行う診察のみでなく、神経診察や腹部の触診など全身を細かく毎回診ていました。また、COVID-19陽性の患者や精神疾患合併の患者の診察も学生一人で行っていました。学生に話を聞いたところ、臨床実習においてカルテの記載から検査のオーダー、薬の処方まで多くのことを行うことができ、臨床実習で診療を行うことに対して月に200~400ユーロの報酬を与えられているとのことでした。日本の臨床実習のように、医師の先生の診療を見学するというのは2年生の時の実習で行ったと言っていました。

また、働き方に対する文化の違いも大きく感じました。朝のカンファの後には多くの人がみんなでおしゃべりしながらコーヒーを飲んだり、カルテを書く時に音楽をかけていたり、かなりの自由さを感じました。学生と患者を診察している途中に、指導医がわざわざ来て、診察を中断してコーヒーを飲み連れられて行かれたこともあり、衝撃を受けたとともに日本の医師の働き方と比較するとその自由さを羨ましくも感じました。

## (2) 今後の展望

今回のクリニカル・クラークシップでは多くの知識を学ぶとともに貴重な経験を得ることができ、自分の将来に向けた視野を広げることができました。この経験を胸に今後の勉強も励んでいこうと思います。また、留学を通して自分の英語力の未熟さも実感しました。将来再び海外留学することがあった時のためにも、医学英語を含め、英語の勉強も引き続きしていこうと思っています。

## (3) 後輩へのメッセージ

フランスでの実習ということで言語について不安に感じる方も多いかと思いますが、医師の先生や学生が英語で丁寧に教えてくれるので間違いなく勉強になります。より詳しい話を聞きたいという場合には遠慮なくご相談ください。

## (4) その他

最後になりますが、今回の留学の実現に携わっていただいたHopital Saint-Josephの先生方、Université Paris Citéの方々、横浜市立大学の先生方、学務の方々、多大なるご支援をいただいた俱進会、医学部後援会の皆様に心より感謝申し上げます。